



○「家族の手伝い」が宿題？

お休み中の学校の宿題に、「家族のお手伝い」という内容が出されることがあります。
(私は子どもの頃の夏休みの宿題で出されていました。)

家族の手伝いには、家族の一員として様々な役割を果たす中で、「責任感をもつ」「生活に必要な技能を身に付ける」「自立への態度を養う」「家族に感謝する」といった多くの教育的効果が期待されるからです。成長に合わせて、適切に家庭のお手伝いをしてもらうことで、子どもたちは精神的な自立を遂げていきます。

しかし、2年生の子どもの手伝いというと、内容はずいぶん簡単なものに限られますし、あまり目を離すこともできません。結局お手伝いとは名ばかりで、親の労力は倍になってしまうこともあります。それでも2年生の子どもの家族のお手伝いをしてもらったほうがいいのでしょうか？今回は、精神的な成長ではなく、学習的な意味合いでのお手伝いの意義についてお伝えいたします。

↓ちょっとその前に・・・

～ありがとうございます！！～

先週の学年通信を読んできたのか、今週2人の子から、「先生、オタマジャクシを家で飼いたいです」と言ってもらえました。

生き物に興味をもってもらえてとてもうれしくなりました。

オタマジャクシはまだまだいますので（あと300匹くらい？）育ててみたくなったらぜひお知らせください。とっても飼いやすいですしかわいいですよ。

○学習効果の高い「家族の手伝い」

子どもの手伝いを家族への手助けではなく、「学習」として捉えたときに、私が特に効果が高いと考えているものは、「料理」です。料理は、①レシピの読み取りから、②材料の準備、③調理、④取り分けまで、様々な体験をすることができ、そのどれもが国語や算数、理科と関わっているからです。

①レシピの読み取り

カタカナや漢字をたくさん読まなければならないですし、「みりん」「蒸す」「おたま」など、聞きなれない言葉もたくさん出てきます。国語の読む力の必要性を感じるはずですが、「よく読めたね」「国語って大事だね」と学習と結び付けるとより効果的です。

②材料の準備

さとう5g、牛乳200mL、1cmなど、単位に触れることができます。長さとかさは2年生、重さは3年生の算数で学習しますが、ここで体験的に量の感覚を身に付けておくと、1L=1000mLのような単位変換も理解しやすくなります。「そのうち算数で習うよ」と伝えてあげると、お手伝いをした上に勉強もできて、得をした気分になるかもしれません。

③調理

包丁でりんごやにんじんを切ると図形や分数の勉強になります。球や円錐の断面は円であること、どう切ると $1/4$ になるのかなど、体験的に学ぶことができます。

理科学習にも繋がり、お湯が沸騰する様子は4年生で学習しますし、油の働きや塩の働き、電子レンジの仕組みなど、子どもにたくさんの科学的な「ハテナ」をもたせることができます。

④取り分け

家族みんなのお皿に料理を取り分けることは、わり算や比、割合の感覚に繋がります。3年生ではじめて「 $13 \div 3 = 4$ あまり1」を勉強するとき、「13このいちごを家族3人で分ける」という経験があればいぶん考えやすくなります。小学校で一番難しいとされる5年生の割合で、「50%多い」という問題に出合ったときも、「お父さんはたくさん食べるから、半分多めに」という経験があれば、量が増えているイメージももちやすいです。

料理は安全面から子どもから目を離せず、正直なところ家族を助ける「お手伝い」にはなりにくいですが、低学年の児童にとってとても学習効果が高い活動です。低学年児童は、「抽象思考が苦手な、思考の手助けには具体的な操作や生活経験が必要」だと言われているからです。

自分で料理したという経験や身に付けた技能は、それだけで大きな自信になります。また、子どもは授業で見たこと聞いたことがある言葉が出てくると、すぐに、「家でやったから知っている！」と生活体験と結び付けて考えます。とてもよい活動ですので、休日など、家族でのんびり過ごす時間があるときに、ぜひ子どもにお手伝いをお願いして、料理をみてください。